

# 經濟論叢

第110卷 第3・4号

---

大正期における地方自治変貌の一視点……………	島 恭彦	1
河上肇における経済と人生……………	杉原四郎	17
河上肇と社会科学の方法……………	山之内靖	34
「辺境地」をめぐるソヴェト史学の最近の討論…	保坂哲郎	60
予算制度改革論の一原型としての GMの基準価格制の形成と管理機構……………	小野秀生	80
河上肇先生遺品展および記念講演会記事……………		103

---

昭和47年9・10月

京 都 大 学 経 済 学 会

## 河上肇先生遺品展および記念講演会記事

昨年末、東京河上会から京都において河上肇先生遺品展を開催することについて経済学部の協力を得たいむねの申し入れがあった。関係者間の協議の過程で、記念講演会も同時に開催することが提案され、京都大学経済学会は、東京、京都および大阪の河上会を総称する河上肇記念会および京都府立総合資料館と共催して、記念行事を推進することとなった。

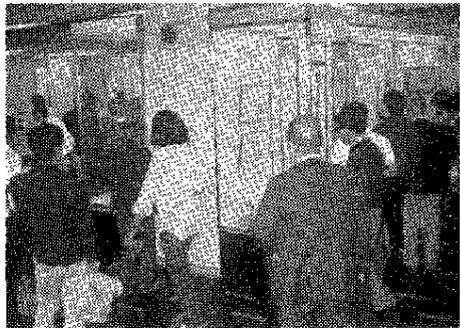
経済学会には特に河上肇先生記念講演会の立案が委嘱された。講師の依頼にあたっては、明治生まれて河上肇先生と個人的交渉のあった同世代の方だけでなく、もっと若い世代の方であって、最近のわが国の河上肇研究を代表する方にもお願いしようということになり、大正生まれの杉原四郎氏と昭和生まれの山之内靖氏が白羽の矢を立てたところ、阿氏のご快諾を得て、記念講演会を特色あるものとすることができた。

遺品展は今年6月1日より4日まで京都府立総合資料館陳列場で開催され、記念講演会は6月3日午後1時半すぎから午後5時半頃まで同講堂において開催された。記念講演会は、行事全般にわたって中心的な役割を果たしてこられた住谷悦治氏(同志社総長)の開会の辞および白石凡氏(河上会代表)の挨拶をもってはじまり、ついで、山之内靖氏(東京外国語大学助教授)が「河上肇と社会科学の方法」について、また、杉原四郎氏(甲南大学教授)が「河上肇における経済と人生」について講演を行なった。これに対して、遺族代表として末川博氏(立命館名誉総長)の謝辞があり、共催者代表としての松井清氏(経済学会評議員)の閉会の辞をもって、近來稀に充実した講演会は盛会裡に終了した。

(大野英二記)



松井清教授



遺品展

(小泉民次氏撮影)